

平成19年度 「基礎・基本」定着状況調査結果の分析（数学）

全体的に、どの領域から見ても、通過率が市よりも低く、数学の学習について、苦手意識が強い結果となっている。小学校で、算数、特に分数や小数の計算でつまづいている生徒もいるし、数学は難しい教科、やってもわからないという意識を持っている生徒もたくさんいる。宿題などの与えられた課題をやって来ない、ノートに書かないなど、基本的なことができない生徒もいる。また、学力の定着のために必要な「反復学習」に粘り強く取り組むことを好まない傾向もある。やらされればやるが、わかるまで（納得がいくまで）やろうとする遅しさに欠けている。反面、苦手であっても、将来のことを考えたり、勉強がわかるようになりたいという気持ちで前向きに努力する生徒もたくさんいる。今後も反復学習に重点を置いて指導していきながら、「やればできる」という実感をもたせ、学習に前向きに取り組ませるようにしていきたい。また、学力の定着には、復習が大切である。学校でも家庭学習のあり方を指導していきたいが、家庭学習が定着していくように、ご家庭での協力も、ぜひお願いしたい。

○「数と式」について

正の数・負の数の計算問題や1次方程式を解く問題は、市の通過率とあまり差はなく、比較的良くできている。文字を使った計算（分配法則を使う）や文字が表す意味を読み取って式を作ったり、文章から方程式を作る問題になると、通過率に10ポイント以上の差が出ている。このことから、おおまかな理解にとどまり、確実な力となりきっていないことが分かる。また、文章を読み取る力も不足している。今後は、応用的な力をつけるために、文章読解力をつけ、問題内容が把握できるために、何度も問題を読み返しながら設問に答えることのできる集中力を身につけさせる指導をしていきたい。朝の読書に集中して取り組むことも大切であると思われる。

○「図形」について

市と比較して領域全体の通過率の差が最も大きい。語句の意味や公式などを理解し、暗記していないとできない内容が多いためか、定着が不十分である。おうぎ形の弧の長さや円柱の体積の計算では無解答が多いし、 π のつけ忘れなど、注意力に欠ける解答も多くあった。これは、練習量が不足しているためと考えられるので、反復練習となるような課題を出し、公式などを理解して用いることができるように指導していきたい。

○「数量関係」について

他の領域と比較すると、通過率が最も低い。しかし、市との通過率の差は最も小さい。この領域を苦手とする生徒が多いからだと考えられる。比例や反比例に関する知識が定着していないために、それを活用して考えたり、計算したり、グラフの意味を読み取ったりする問題もできていない。まずは、基本的なことが十分に定着するように、時間をかけ、丁寧に指導していきたい。